

コラム

日本の復興へ向けたオマーンからのプレゼント

計量分析ユニット 研究員 青島桃子

オマーンでは日本産マスクメロンは食べるダイヤモンドと称され、高級贈答品として重宝されているという。

そのオマーンから、貴重なプレゼントが日本に届けられた。オマーン王族企業が被災地の南相馬市にある町工場に浄水器を大量発注したのである。受注額は26億円に上るといふ。

オマーン南部は中東では降雨量が最も多く、多いときには年間760ミリの雨が降る。しかし、石油産業で発生する含油排水が深刻な水質汚染を引き起こしており、上水資源に乏しい。水道網、給水所、ボトルなどによって飲料水が供給されている人口の割合は9割に上る(大使館調べ)。政府は、生活用水の確保のため、含油水から油分を取り除く浄水化事業の拡大に乗り出している。既存の浄水器においてもよりエネルギー効率の良い機器への代替が急がれている。

今回の発注の決め手は日本の技術を評価してのことだといふ。いろいろな水質に対応できる浄水器は、この町工場が持つ世界でも有数の技術である。震災前からオマーン企業はこの町工場と交渉を続けており、震災をきっかけに成約となった。なお、この浄水器は発注企業を介してオマーン国内だけでなくインドやアフリカでも販売されるとのことである。

「日本が大変なことになっていることを知り、力になりたいと思いました。」発注企業の責任者のコメントである。シンプルなコメントだが心に染み入る。かたや、国内では福島県産の花火の打ち上げが、抗議によって中止されるという事態がおきた。それに比べ、この浄水器の契約はどれだけの人の心に光をもたらしただろう。

オマーンの日本に対する関心は浄水器だけではなく、再生可能エネルギーにも集まっている。オマーンでは、近年の経済成長による電力需要の急増と国内のガス需給の逼迫により、新たなエネルギー源が必要とされている。政府は、化石燃料の代替エネルギーとして太陽光発電導入政策を打ち出した。そして今年、日本の企業が太陽光発電プロジェクトの開発業者に選ばれた。

事情は違えど、日本も、今度の震災で水や電気が当たり前のように提供されえないことを悟った。国難の中で、水や再生可能エネルギーといったビジネスが輝き始めている。マスクメロンに次ぐダイヤモンドが再び輝くことを切に願う。

以上

お問い合わせ：report@tky.ieej.or.jp